
The last day on earth -**プレビュー版**-

橘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

The last day on earth - プレビュー版 -

【ノート】

N08980

【作者名】

橘

【あらすじ】

戦線の居なくなつた世界で、たった二人残された日向とユイ。そんな中、彼らは何を思ふのか。

(前書き)

こちらは2010/11/3開催の「Angel Beats! Festival」にて発売される、ひなユイアンソロジー「MY Best Treasure!」掲載作品のプレビュー版です。
全体をご覧になりたい方は、ご購入の程宜しくお願い致します。

「ひなつち先輩」

「よお。……何だよ、ユイ。何かあった？」

「あったよ。また一人、居なくなつた」

「……そっか」

ここは彼岸と此岸の交わるところ。

ここは生前の未練を洗い流すところ。

未練が無くなれば、人はここから旅立って。

そして、残るは私達。

かつては戦線メンバーが溜り場にしてた、この校長室。けれども、今となつては私とひなつち先輩、二人だけ。

「で？ コーヒーは？」

ソファで寝転がっていた先輩は気だるそうな声を上げて、起き上がる。

はい、と言って先輩に缶コーヒーを投げる。

くるくると回転しながら、放物線を描いて落下してゆく缶コーヒー。

先輩はそれを片手で受け止める。

「おお、サンキュー」

私と先輩は自販機で買った飲み物に口を付ける。

外では、運動部の生徒が賑々しくそれぞれの部活に勤しんでいる。あの、体育館での音無先輩の演説以降、色んな人が去っていったけれども、その様子は全く変わらず。きつと、私達が居なくなつても、この光景は続くだろう。ずっと。永遠に。

私達はその様子をぼんやりと眺める。

「そっぴやあさあ、何か外の音が寂しいと思わねえ？」

「え？ そっぴですか？」

私は耳を澄ます。いつもと変わらぬ音。

「ガルデモだよ。毎日ひっきりなしに鳴っていた、あの音が聞こえない」

そっぴか。そっぴということか。自分の音だから全然気付かなかった。

「お前、もうギターは弾かねえの？」

先輩はコーヒー缶に目を向けたまま。

私は黙り込む。外の喧騒が部屋全体に染み渡る。そして、暫くして私は口を開く。

「多分、もう弾かないと思います。一緒に演奏してくれる人も居なくなっぴし」

「 ユイ、あんた一緒に行かない？」

ひさ子さんの声が蘇る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0898o/>

The last day on earth -プレビュー版-

2010年10月19日17時21分発行